

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	地域特性に応じた重層的支援体制整備プロジェクト ～包括的な相談支援整備と参加支援の創出にむけて～				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	栗田 真由美
	研究協力者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	操 華子
		所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	東野 定律
		所属・職名	御前崎市健康福祉部・部長他	氏名	
		所属・職名	湖西市地域福祉課・課長他	氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	栗田 真由美

講演題目
地域特性に応じた重層的支援体制整備に向けて
研究の目的、成果及び今後の展望
■ 目的 地域特性に応じた重層的支援体制を構築するため、湖西市および御前崎市と協働し、地域住民・自治体職員・福祉関係者など多様な主体が連携できる仕組みづくりを進めることを目的とした。これにより、地域共生社会の実現と、持続可能で発展的な支援体制の確立を目指した。 ■ 成果 - 三重県伊那市への視察 - 先進市である伊那市を御前崎市職員と訪問し、体制整備の歴史や工夫を学んだ。 - 伊那市の特徴として、市直営の地域包括支援センター運営、相談支援包括化推進員の配置、法制度横断の地域ケア会議の実施など、包括的支援の仕組みを確認できた。 - 湖西市には視察内容を事後報告した。 - 視察前研修の実施 - 御前崎市の関係職員に対し、「複合的課題への支援の実際と包括的支援体制の必要性」をテーマに研修を実施。 - 体制整備の意義が共有され、職員の士気向上につながった。 - 組織内の対話促進 - 視察後、御前崎市では職員間の議論が活発化し、今後の方向性を検討する動きが生まれた。 - 学会参加による研鑽 - 発表には至らなかったが、学会参加を通じて知見を深める機会となった。 ■ 今後の課題・展望 - 先進市と体制整備に課題を抱える自治体が協働するワークショップを開催し、自治体間の学び合いを促進する必要がある。 - 組織課題の可視化と改善方向の共有を進め、各市町が自立的に包括的支援体制を構築できるよう支援することが求められる。 - 住民・関係機関・行政が継続的に連携できる仕組みづくりを深化させ、地域全体で支援を担う体制へと発展させていくことが今後の重要な課題である。